

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年12月5日更新

| | | | | | |
|---------|--|-------------------------|--|---|------------------------------------|
| 事務事業名 | 地域再生拠点創造事業 | | <input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連 | <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 | <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連 |
| 総合計画体系 | 政策 | 3 働く人々が輝き続けるまちづくり | 所属部 | 政策部 | 課長名 坂本政誠 |
| | 施策 | 11 農業の振興 | 所属課 | まちづくり戦略室 | 担当者名 塚本健洋 |
| | 基本事業 | 32 後継者の育成 | 所属班 | 戦略班 | (内線) 1233 |
| 予算科目 | 会計一般 | 款2 項1 目9 事業連番11560 法令根拠 | 農地法、都市計画法 | | 成果優先度評価結果: ⑨ コスト削減優先度評価結果: ⑥ |
| 終了、開始年度 | <input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始 | | 事業期間 | <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度) | |

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

| | |
|--|--|
| 【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む) | 本市において、過疎化及び高齢化を要因として、空き家や耕作放棄地が増加している地域が存在してきた。この状況に対し、それらの要因の解析と地域の資産を活用した対策が必要となる。包括連携協定を締結している熊本県立大学と協働により、過疎化・高齢化が進む上庄地区をモデルに現状把握及び要因等を調査・分析を行うことを目的に、農家空き家を活用した交流施設「みんなの家」で地域と交流を行い聞き取り調査を行う。遊休農地では、県立大学で農・食を専攻している学生が地域農家の指導を得て就農実地体験を実施する。その過程として九州沖縄農業研究機構が研究している作物を試験的に栽培し、その作物を使った健康食品の開発研究を行う。 |
| 【業務の流れ】 | ①空き家所有者賃借契約、県立大学委託契約 ②上庄区(担い手農家等)との交流会の実施 ⇒ 地域調査 ⇒ 分析 ⇒ 報告書作成 ⇒ 区へ報告 ③遊休農地に水稲、蕎麦等の試験栽培 ⇒ 健康食品の開発 ⇒ 区へ報告 |
| 【主な予算費目】 | 時間外勤務手当、報償費、消耗品費、光熱費、燃料費、役員費、委託料、使用料及び賃借料、公課費 |
| 【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? | ・地域住民との交流のようにして図れるかが大きな課題である。 ・地域の現状を分析し、将来においてどのように改善していくか時間を要する。 |

1 現状把握の部(DO、PLAN)

| | |
|---|---|
| (1)事務事業の目的と指標 | 新規・拡充区分: |
| ①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) | 25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) |
| 包括的連携協定を締結している熊本県立大学の協力により、過疎化・高齢化が進む上庄地区の現状把握及び要因等の調査・分析を行なうことを目的に、農家空き家を活用した交流施設「みんなの家」における地域との交流会の実施と試験的に同区内の耕作放棄地におけるソバ・水稲栽培を地元農家の指導により実施しながら、聞き取り調査等を行なった。 | 継続事業として熊本県立大学と協働で、過疎化・高齢化が進む上庄地区の現状把握及び要因等の調査・分析を行なう。進め方として、交流施設「みんなの家」を拠点に地域との交流会、耕作放棄地における地域との交流を実施し現状把握を行なう。 |
| ①活動指標(事務事業の活動量を表す指標) | (単位) 予算の主な増減の理由 |
| → ア: 県立大学生と上庄住民の意見交換の回数 | 回 種苗、肥料代等購入費の減。 |
| ②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 | ②対象指標(対象の大きさを表す指標) |
| 上庄区住民 | (単位) ア: 上庄区世帯数 戸 |
| ③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) | ③成果指標(意図の達成度を表す指標) |
| 地域の課題(空き家の増加、耕作放棄地の増加等)について取り組んでいく。 | (単位) ア: 意見交換会等参加及びアンケート調査に協力された世帯数 人 |
| *③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠 | |
| 人と人との絆が強化されることにより住みよいまちづくりが形成される。 | |
| 総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0 | |

| (2)各指標・総事業費の推移 | | 単位 | 22年度実績(決算) | 23年度実績(決算) | 24年度目標(当初予算) | 24年度実績(決算) | 25年度目標(当初予算) | 26年度予定 | 27年度見込 | 28年度見込 |
|----------------|--------------|---------|------------|------------|--------------|------------|--------------|--------|--------|--------|
| ①活動指標 | ア | 回 | 0 | 1 | 3 | 4 | 5 | 7 | 10 | 10 |
| ②対象指標 | ア | 戸 | 0 | 246 | 246 | 245 | 246 | 246 | 246 | 246 |
| ③成果指標 | ア | 人 | 0 | 7 | 50 | 67 | 100 | 150 | 200 | 230 |
| 投資入費量 | 財源内訳 | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | |
| | | 都道府県支出金 | 千円 | | 6,000 | | | | | |
| | | 地方債 | 千円 | | | | | | | |
| | | その他 | 千円 | | 6,044 | | | | | |
| | | 繰入金 | 千円 | | | | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | | | 1,302 | 1,174 | 1,254 | 1,300 | 1,300 | 1,300 |
| | (A)事業費計 | 千円 | 0 | 12,044 | 1,302 | 1,174 | 1,254 | 1,300 | 1,300 | 1,300 |
| 人件費 | (A)のうち指定経費 | 千円 | 0 | 0 | 21 | 21 | 21 | 0 | 0 | 0 |
| | (A)のうち時間外、特勤 | 千円 | 0 | 0 | 21 | 21 | 21 | 0 | 0 | 0 |
| | (B)人件費計 | 千円 | 1,297 | 5,491 | 1,615 | 3,330 | 1,615 | 1,615 | 1,615 | 1,615 |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 1,297 | 17,535 | 2,917 | 4,504 | 2,869 | 2,915 | 2,915 | 2,915 | |

| | | | | | |
|-------|------------|-----|-----|-----|----------|
| 事務事業名 | 地域再生拠点創造事業 | 所属部 | 政策部 | 所属課 | まちづくり戦略室 |
|-------|------------|-----|-----|-----|----------|

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度の後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

| | | | |
|---------|---|---|---|
| 目標達成度評価 | ①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？ | <input checked="" type="checkbox"/> 達成した 遊休地、空き家について地域から協力を頂き準備を進めることができた。また、大学生についても地域との交流、農業体験を希望している学生とも調整が進んだ。 | <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 |
| | ②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？ | <input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 実際に非農家の学生が地域との交流が図れるかが課題である。 | <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？ | <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 現状では年々遊休地や空き家が増加傾向にあるため、このような取組みを一層強化する必要がある。 | <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 |
| | ④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ | <input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。 | <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 |
| 効率性評価 | ⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) | <input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 事業遂行のための最小限の予算であるため削減余地はない。 | <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 |
| | ⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) | <input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の事務で行っているため、削減の余地はない。 | <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 |
| 公平性評価 | ⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 全国的な問題でもある「後継者不足の解消」に資する事業であり、新規就農者に対するきがつくりをサポートすることにつながるため、公平・公正である。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 |
| 役割分担評価 | ⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？ | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 遊休農地、空き家を活かし、後継者不足の解消を図りながら地域の活性化に資する事業であることから、行政がその役割を担うものである。 | <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 |

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

遊休地、空き家について地域から協力を頂くことができた。
今後は、学生と地域との交流が図られるかが課題である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|----|-----|--|--|----|----|----|----|----|--|--|---|----|--|--|--|----|--|--|--|
| (1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) | (2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | コスト | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | ○ | 維持 | | | | 低下 | | | |
| | | | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 熊本県立大学より、上庄地区へ地域の現状についてアンケート調査が行われた。今後、調査分析を行い地域の活性化に繋げるまでに時間が必要となる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |